和歌食物本草　上下

1095

和歌食物本草巻之上

い　草(くさ)の部(ぶ)

苺こそはあぢはひよくてあまけれどよびやうにどくぞおほくはくしめ
いちはめくさゆざりさへの月はあまくまへりしかんはすひおこしれり
いちごそうへくへだこそよらしてちつまおつりのとし病へ下
いちはらて腸胃(ちやうい)ゆるしさとでびんぼうかよりひて血(ち)をもまぐりあり
いちはらて肌ようなおすなどもよくせんざいのさぐころて脾(ひ)をぞくらすむ
いちぞうてかきゐる秋へをもはすめよいのさうぶありめぐく けう気よの
いちはらさひへのあるれどかりとろはなへめんせうしうてはぞよれ
虎杖(いたどり)はびやうなものぞぶくいなし脹(ちやう)まいそうくろいへゆらし
いたどりはさんごれがうらぞどうえかなこれそろなきよくすべきなり

いてうりいちくよそにぬりつきんびやうに生よくすべきものなりされどのかはし
いてうりいちくちとゆぶつりのるわざなくこそんなふきさらすべきなり

菓子の部

覆盆子平わまりくざくはひゐやはどん宝りしてあひゆんとなり
いちごそてうこゝろはにきやらくすんなよりてだんとみえたるふ
いちごこそふだんさげくだんつきそへかのくろきさにくすりなりけり
いちごこそ血をあつくむし目かてはし世さるりたかど志よくまぜへ
いちごこそいんはるゆゑどうふすかせいとろりこまぜてかざさるすふ

獣の部

牝鹿ハひ立めてよかひ百びやうはよくさ志るも血をどうすなり
いのちこいまうかれひよりて世に入りあうにゆごてたんよしやうずなり
いのちとしやうげとくるだ大かぜやみいらひさうあうろりのなり
いのちこさらしとだうみくさらすなりすんぞくしのむつろなりけり
いのちとやとろくしてさけよのかすじ火にあぶりてくちぶるにかけり
いのちこいちずくらとうすぐりのぞらじぞんのさうゆてくすりなり
いのちとそぞくだうみえくさりすのうゆひげ盛てぬけやそれなん
狗ハうんめざう血くげきるまいほちすらたちへ腸胃あります
いぬこのく下さうあつめせいよはのまづやりてにより血おりくへくそへ
いぬ乃ゐて月とあゆきつかたすのぞこゝろへとはつて口みつてや
いぬハてあひざゆゆくへよりくえまてへへとよろくこもふとの
いぬハうそへくよみみふさらひ香らのまそのこりきさよぞ匠む
いぬ乃みなんのるゆうからゆぞとんらすちにかありてとりなり
いぬこのゆなくさそいきんかやよりからへにハえぞそんぞうりなり

魚の部

鰯るいハきんどくなり八月より九月まであつさいまだしいちぶあやうし

いわしハちよくやうかすものなりしかれどもやうくをとこきうすべし

いハしをばおほくしよくすればたんのどくをもよほしてつかへてこゝろあしくすることあり

江豚るいハかたりとおしすりのなりしかるゆゑにこそやまひになるなり

いるかてそこさよをかざるいそてさとでするりんのかたにいするなるりおり

いるかそのあさそしとこむしるなりせうかんつうじさるまよく両ものの

海鼠うんむしとやしてさるどでぶすきんどくなるハさんとさろなり

いりこそかんけのくすりなりおふくにそしけやたまりゆくへ

いりこどくつ○よくすどう百びやうにはのこたくらずしゆくどあかより

烏賊これハおまきのかくなるハこれのあよびやうにして心をさらうなり

いかハあくこ紙すものぞみむしゆくどあかよう胃をあしくなり

いかしその月をひめうくでぶすなり入あとりめにいすりなりなり

ろ

米穀之部

六条ハきよびやうにハよりびやうなり脾胃をつよくしやしよくをすゝむ

ろくでうもゝ○こがしにしてくすりにもちひてよしとすせんじのみてよし

草之部

蘿蔔煮○かんきんきうとこのむ毛脾腎によしまより百びやうによし

獣之部

鹿肉ハさんぜんさんごやまひにさきよくより正月より九月までのまず

ろくかくわきはもくりふゆはすくの生あらしてあびやうとぢるを

ろくきん女もいたすべからくやめきつよしてすよとおもひからさのふ

ろくにく血のみちとぢ帰けるぢ血てうがきやくしめやろくのにはし

ろくをいそうとこもあへて血をてすくたかんくにしひふのうくに

ろくちう脈くけれあまりすいでありくきらく女ぞ歯をそんずるぞ

はくちごは瘡疔にもよしからゆまにつけてぬりてもよく乳もよくでるなり

は　草之部

繁蔞ははらのいたみのさしこみにはすりてつけてよし
はこべそちごはあしきをもつかりなさんごにちゝのではだ
はこべはかうきもれのわらさうみせうかんとしてもよし
はこべはくさのきずくすりのなれどはらくだりやせん
薑はかんぞもとりてきたんせきをもしやくなどにもよし
はじかみはやうくんはつゝきをなぐふくすりなり
はじかみは肺のやうくちらすも胃ははつきてちをとゞむなり
はじかみはやうきさせてすゝむもれをふさぐまちるなり
はじかみは目はあつくいめいきれにきれよりなり
はじかみを八九月にたべくすりにすれば目もそこなふ

はじかみはむびやうれんこりてすゝにもちからつきてよし
蓮の実はあぢはひあまくひえたりの気をのでいめとよし
はすの葉はあざうかざしむしよりなくもきどくなり
はすの根はちうきはやうえんにきぶきれあつくいしもなし
はすの実はすかりつて上をくてちをとゞめらるなり
鼠麹草はあまくあいるりて中をためてみんをつくるなり
はゝこぐさ味つれはとむきさむるりゝりてとゞむなり

菓之部

榛子はあまくあいるりて脾中とゝのへ気をましなり
はしばみはあしよわきとあすりのひえをさけりもし
はしばみは腸胃とつのうすりぞかしおりてもゆるしよし

鳥之部

鳩(はと)ハ気をましくだし目をあきらかにし精をよくするゆへ人をやしなふ
それハてきをよくそんし人をやしなふゆへねがふやまひなれの者ゆへに
それハてきよくをそんし、れをしすのぞかめをおさめ血をやしなふ
それこそはこなるかざるをもちひてしそれのくうふをひりすべし
それハてその毒をかりさるのなれのはだへのさまのくろしてす

魚之部

鰷(はえ)ハきよいひいとくのへきこよ気をまりてんけんなれとよりむけんをそだてまして
それハてきだんとかざるハさまよく血をもちすぢていゆくをぶらかり
鱧(はも)あまりひへのもりごくハ目がさんにどくつけちからその
それハてきもひやからのそれらになくにひらへてすこしづくへ
それハてよくひいとうのひ毒よくすあくけふうちのくすりこ
それハて大小あんとつじてきうきふかて毒あてきびたくによし
それハてに百びやうにとりて毒よくすやそのきんまでおかるくあるべく
それハてむしみさのしなりとれバ風をさるのとしれ
鱝(えい)ハひいとくのへきるまよく血を尻をおとしてかさをきさず
それらそれにとくやとなりこそよふなるすずわずむけおろりのく

虫之部

蛤(はまぐり)ハあまくひえりのむしのどくかへれの毒きひ豺つどくにより
それかりハさてよわらちふかりし目に気をりいんかよく目ぞんとそれま
それかりをかくき毒くすおむかくもしとかつてなんともやすず
それかりハさけのどくけし胃をひるくかん豺やさかりくへき気よし

に

穀之部

濁酒(にごりざけ)二日よりしてむかつくへせんおんおくきがつかそんよしそれ
かどりさけそきしろかりささかおよくめぐらしてころいさむる

菜之部

人参（にんじん）ハおさゆふくしちうさぞおつゆあぢさうかすりのとせうずし
独活ハくおぢうひハあまくうんきのしやうかんのちからくいむべし
なるべくてえうさ三月よりその内ハせうくさかべくだあしいそへる
なるなし窖（かう）ともさらなりのぞりしくひのいきれやしゆるきぞある
ゆふべくある ひざゞよくおさてもうらさゆそひじて胃のさうなる
ゆるやさくみぞうなりげせうくするめこさよしやおぎるひてやく
ゆるやさてさけのそてのちせうくするかゆめかせいのりさよするかれよれ
ゆるそれハせうぢんの血（ち）とするとりのそうれさりてやむかぞよれ
なるハさくへとこやせうりのるれと八月かいましせうくすべかれ
なるをそれおくせうくせはまるこゑそてくはあるもものとしゆせ
蒜（にんにく）ハくくうんるり目ぬざくでせうくとなすべからずよし

にんにくハみらんそうれいくことあさこきゆくやそうれそうのかそくよれ
にんにくハ脾胃（ひい）すくなうかすうのぞよくそれそのやうさちうれるり
にんにくハくるびやともいうりのぞかしむざきそおりのそうにあるのなし
にんにくハさいそそつて風とさうすじせうくせはそくそうとなる
にんにくをひさしくのこせうくするあそいんなはずまれんとやまする

禽之部

雉（きじ）ハこさよとおさるひりりのぞりしけれいろふせりうちのゆく
おぢうてあぢうひハあまくうんのうりのやまみのあしけよくるはらとなり
おぢうて中（うち）とおしてめこさるせうく痔そこさよやとふるひてうさいやせ
おぢうてちとよくきむうりのすれやおこり気おちてはちいらむべし
めぢうておまむゆくうんるこいのりのうれのやまひくさむうるり
めぢうてせうぢんせけさく人ぞよりしみぞこあぢるるハこぢうそうとむ

おづゝかうりびやんのりのぞきよ此くまりもはそくさりのめくむくぞだす
おづゝかうりこちゆすだ此はやうげいくこむびまでおゆふおそよ此
おづゝかうりせうだんきげさへやりかへてさこへおもふすりあるりろり
おづゝめうりおまくさんあり風りんやしつきやとけてきのつくにたりし
おづゝめうりさんごにやうちそゞりすれば世かろへ家へいきうくせよ
おづゝめうりえる此いてこともむつりのかゝらきろさいへころすあり
きろかうりあおうひまゆくびやんあうりさなとてへつてきやうらんとだす
きろかうりえぞうをきづめうゝれどめせうだんつじ中せとおぼさるよ

虫(むし)し部(ぶ)

螺(にし)ハうみへとひきとて貝のいてこ屋まさろにへ入すりありろり
かいてもはむしまよのそれすりあり茶(ちゃ)さあらへてきよくすへとさ
二かいどうぞくさりのふうくすりそづれおくきやくせよすむぞくにたりし

蜷(にな)ハひへさけやとも母てちえにたにも乳すりありこてあう紙だす
ゆうへてぢやうことゑそずすりのぞうしめとおさてのめんつおくすり

ほ　穀(こく)し部(ぶ)

法論(ほろ)味噌(みそ)ハろん此りのあうむやうしろうきやと乳くきたんとさうあり
かろこそハひぬ此くすりそこさつよく油まとき此ろくとぞすりのあり
精(しやうじん)もそむひとつゆうこてやさぐうこあへりしりちであへい此ん
かりのへとぞおかくきよくすおそくそゞうきうらんおこり胃(い)ふそえずう

菓(くわ)し部(ぶ)

餡(あん)ハてあぢうひおまくをひ此りのあ此やと乳くくりのくこうをし
がくそハみぞしゆさうふすりのぞひさしくきうしことゆまそあり
がくそハちやとうりすりのあうやそくことえあふてきこてう

と　穀(こく)し部(ぶ)

豆腐(とうふ)もそひえりのごとく見ずにおどくぎんまいにやりかくろうのあるり
さしやそれこなをすこしくすこづくおりだひくちなにじまてまよきりの

蕈(きのこ)之部(ぶ)

野老(ところ)らんきりをそろをれどくなきやちしもどかうきやくむきしもせを粉まぶ
さこわれさんどおてそろうへつひきひそいうてむしときりよう子かむし
とこかそこさしあつりのなまくすなり中さよみ全まぶらいむせ
とろくきろうなめぐらしてきやくすゐ子すぎそてへえるぞやくれせんへだつり
とろくきろおりくすにきやくすゐ脾腎(ひじん)のくすり分さまよしとぞんそふ
雞冠(とさか)ハあをはよどくににわちくすせうあんつじきやくいとするむ気
とさかハつのかきうしせよ目のくすりきんちへのざこかざるひをよくり
とさかハおくきうらしてちもと厳ぶかくおんつじやくいとくすあり

魚(うを)之部(ぶ)

鰩魚(とびうを)ハうんみのあるりぎんやくぞてるあきぶかりそうもしにはなれるり
とびうをハひのもとそのへきやくすゐめのつすりつのまくてあるし
とびうをハらうさひうんのそぶりそうとむろうのあるりにてちゆせ
とびうをハ百びやうにはしどくにみへちやくぶのくすりあり
とびうをハえそにざんなにかちゆやせうんさんどなれさてつりりにし
とびうをハらうけれくすりつのほかくへおりつらしてをやこらうとするう
とびうをハあざりわざさるひ虫(むし)やどのかんらうきへのつれやむそろふ
とびうをどひさうしきやくにさつまよくゆるとまうろくてゐらさてのぶ
鰌(どぢやう)ハるいのぶどくに百びやうにふあらぶるりのさやまくゆるし

虫(むし)之部(ぶ)

とぢさ貝(がい)ひえりのひのとそのへてあつきがりせさむしろうのめく
とぢさ貝だんとけとるうもしやらかも目をあきてろかふろくさいへとをさ

ち　穀(こく)之部(ぶ)

粽(ちまき)ハおほくどくにもあらねどもあまりすぐれバちゆう
ちまきさへそバへにはちゆうかいさりともたべにはすりたり

草(さう)之部(ぶ)

苣(ちさ)ハぐんるいみなるハかれのさんどにまさらずあまし身もし
ちさやうハどうらぬはぬてかぎらるひてもはゞかりてきたなぐすりの
ちさやてもちうとやくにかゝりてさしとやてゝ歯(は)をそうすう
ちさハてけいらくをようつかりさはるうちとひやしそすれ

木(もく)之部(ぶ)

茶(ちや)ハそそくてすこしひえりのせいにいたんようじて酒(さけ)をもりさんとのなり
ちやハそそくてどくようすりさいできそぶゆきてのせてこおつとさう
ちやハそそくはあめあつそらしともしるかげつにぬすりさけさけとの
ちやハひゑよふすくわうきをとるのむやこてめうをさしそたんをさくちる
ちやハそそくて酒のどくをとりのぞけれバやくさきてをふじやうしきゆうかる
ちやハのみふせうるかなはくすりよりのうかのひゑよふしにたり

り　菓子(くわし)之部(ぶ)

林檎(りんご)ハわうらうひわすくたふくをなぐと酒をとりてきをたふしす
りんごこそちくらんみハたいりをくせひのりゝうよそらくとゆうるり
りんごこそたんれいをとどむるれみハかうれをとゞむうたりくり
りんごをバおゝくたくすみたんしやすちをとゞけてようぞおこれう
りんごをバおかしたくすみかや酒つきてようひつわで酒もりそおき

ぬ　穀(こく)之部(ぶ)

糟味噌(ぬかみそ)ハひえりのるおゞやくちやれたいりくへのちらすにくふぜし
ぬかみそハ目れをづかひのやつびひすゞたふりてのちらくくるう

ぬかミそハむしやくにあしく胃をそこなひむねをおこしてあしくとすとも

を　穀部

大麦(おほむぎ)ハしんをゆくうんミぐびんうこされを ますひらくとむくあり

大むぎハ中をとゝのへ気を益しはまよわかぎさるひあしくとけまた

大むぎさかあぎをつかしさを毒すちすらぎさうんにあつくちらにあし

大むぎハ胃のふをつけうかのゝわうかりて又毒つきさうゐあり

大むぎをいりてあつくせんわしひざれなうかりぬかうりのさし用べし

大むぎをひきしくあうしるをひけれもたるへすこざうをりあり〳〵

わ　穀部

わりのゆをあさとく一どあつくすれバ胃のふうのかりちんたまさとまち

わりのゆをおゆあつくするそふゝれおさんをげくうよ毒しれを

草部

蕨(わらび)ハそのあまくひえりのおかどたようくすかりのでしミてよし

わらびハそ目のどくミへうこらげれハつかりのありおくあつくする

わらびハかさなれバおほくいでおりへてよおりくしてよろし

わらびをそくゑよりてひえうろくまいあつてさえうあり〳〵ぜんれどくあり

わらびハそすぢかのれ中をふうりちぶうけおつしミてよし

海帯(わかめ)ハそのひえりのうきはなくてと水気(すいき)をそぞすりのどをかせし

わかめハそれえてとえ気をぜをちをとひすじてハむよたくらん

わかめハれたゝきんをそてかそくされすぎそうえれぞうりやせん

魚(うを)部

鰐(わに)のにくを毒つきとてまずうきれバくじ病をちを益すあり

わにのにくをゆかてのちおどくやしえうミすみてすじくかあし

わにハてひあようかりこやするりえんじりかあくあすとりの

か　穀之部

うきりちハよろ川をさく此人よりも腰つりかゆてまつりべくさうり
うきりちのかくれハちやをしじあかりさんご目まふよりれ子すりうえ
うきりちれかくこそくとやしにぼりるあをもりえくよりくとむかりの
角ハゐるハひえのりのるり胃とそくぐすれてハぞんよあゑかりのるり

草之部

蕪菁ハさんのりのるりぞくはじきをと毒みハ壱ちくとけまとりの
かぶらなハくと毒てもくゆかふみぞうしをもとすかりのさきうぞ
かぶらなのえふハきしうぞくもほじてよふ子なり腫よハどくあり
唐瓜ハおよくひえりのくきとあふなんつじハいさりさ毒せり
とうりハこうちうえをみさいやと多くさくすゐみち此かりくりの
冬瓜ハおよくひえりのこさを毒てあふりさて此されをひらする

くまうりハ飢きさの害すひかくとあて又ゆだんをつじこそすれ
くまうりなうちやりかれハきうりやいすじづくくさ毒すりのるり
くまうりハひえそうく人ハ壱くすゐあふへのちよ害そうかりのるり
くまうりハ壱てかりてのちきかくもやしさすあちふくとよぶらふ
干瓢ハもとじひえりのまゝくハゐるハ害ぞんとよくつじてそもれ
かんぺうハつゐんびやうやきもむかるりらくとその人てあらべくさりの
川苣ハひえのりのるりちのこちやむしのハいさりとさ毒すりのるり
かはちさかるくさいゆじきつきよく毒をきよとくれるひてかさはき逆
かはちさハむしくすりありさけすぎそのち目ぬすかずよ壱くすへきく
かはちさかゆり川やみいくきぞすりてあいみちうらちとぞしつむう
かはちさいきさとすじむうさんのくち乳のくきざうにりちひそされ

菓子之部

柑子(かうじ)はすこしあまくあたゝかにして、すゐびゐを補して、きよくざうなり
かうじやうくわびんつうじられども、されどかんおゝれおゝかりのなり
かうじのかハ、腸胃(ちやうい)の気(き)をめぐらすものなれども、おほくくへばきをへらすぞ
林檎(りんき)ハあまくひえりのなれども、おほくくへばきをつうじかへすれ
りんきハてらふぞおゝるひえんたいとうかはしてみづからきをそだつむ
りんきハてたんをけして胃(い)をおさへちをそへ、くへばおこへでそだつれ
りんきとうふどうあまくあまれえけりハきよう、みなれごうりのとまるもし
樝子(りや)ハおほくくへんまでくびちなみたりすんでのむしごるすりの
りやなくきよくいとけをなりすぢなをかつけ目(め)をおさへふす
りやこそハきをよろくすうりのなればみハさくろをあぐしにくり
りやのミをひさしてきよくし百(び)やうにあかうきうりのむしさすりなり
橡栗(くり)ハおほくくふハゆゑてぐりもちをあくしてひゐをそるなふ

くちくりを延(の)へるふみて百(び)やうにをひてくへさえゆぞうし
くちくりをとさずはへのえきよくしやもみなこふでうけよいゆぜ

獣之部(けだもののぶ)

鹿(かのしゝ)ハえんのりのあまりきるよく血(ち)を津(つ)をえ気るひをぞうつらくす
かのつのハちをそへのゆるりのちよしをびりなひまぞうつらくすかなり
かのしゝハあぶらのいろさとらくるゆゑをいんれいあつさふある汗(あせ)すりなり
かのしゝハきんるのあぶらとむかなりゆへふかやみなかへらちひのよし
かのしゝハちうしぶくろつけれ汗すりなりあつくさうくせ歯(え)やれんじるえ
獺(かはうそ)ハおほくくんなりみなるさいまでいまちや、ゆんしをびてにくし
かはうそハ目(め)とおきてるふきいぶさせなさしひさしてさ血(ち)をねまらし
かはうそれならもみはいぞくれおかるれどもらきまのむしくろもとりのなり
亀(かめ)ハてあまきハ、ありくなるといれりのミをよろしくびにさとぞ血(ち)すゝるなり

かめハまんねんのよはひをたもつとたとへけてきはくをすゝむる
かめハてらてあそびしものなれバいはゐくいはへにもちゐせよ
かめをもて十二月にきはくするとしちゝをとゝのへをのるなり
かめにてうらなふをかめのこれうらなひにもちゆるなり
かめのうらしやくじやくとよぶふうりのゆゑかりしてうらなふにもちゆ
かめのかうすぢありてこれをかめのすりなりてうらなひの
鼈（うこがめ）ハさうくつの形をあらはすものなりとさかりのあけなせるかたちなり
うミがめハそのもとのすがたなり黽（かへる）とどうきんなれ
うミがめハわまくひろりのきさなきすいんとおなじく中をもくのゆ
うミがめのあつくして十の字やその字王の字おうハ大どく
うミがめのかうしをゆくなどハそのなめくかめとおなじき

鳥の部（とりぶ）

鷗（かもめ）ハわかくさくはしろくさとあかきにすむものなりかもめとらうさ
鴨ハひえ中をわたるひさつきにこくよ
かもハひろきうみのさい中にせうがんとつうじてすれをはゆるみてなり
かもとしてきこりしうくへてよりくゆくもきまへげさんすつうそれ
かもそれハあをそびとてりらゆくなるくハ文ろうけふかぞいひ
かものきよろきさら形へつらとあゆりてきそよろそびるもてきさいやくそく
烏鴉（うけ）ハとへもうづとちらくに日ハはるかなり
からすとんきよすふとりそくりゆうさしおきあるれのてんなるのあ
鴈（がん）ハそろひのはくをハはりのたちふみつくきいろふら
がんそれハそとさくすうりのやもわやくへとらくすぎりとかり
がんそれハちくぶつこのかくへもふすしとつまくらつ
がんそれハちよみばしるぞくすろこそしてきめやくそりなり

がんをて六七月よりくすりみなのあしはやまつりのなり

魚之部

比目ハいきよをそはるひてさしくゆとくらへすしてさかなとすく
鮹らんわるくぞく也虫やどおきよびやにあくたらざりくり
あすこれみさつかざるひさつきくまんぞんとくだる人ぶ人らわす
あすこそとよろくすうつふさへとひげそろくうづくすうなり
くさけハおまくすにかへんのよのさとぞんひそちくさすそすうら
くさけハかろさよれへさらくすぞすぢあまつらくすうしれさけ
くさけをひえくるとえ食まくをわハ月すいわりらはんとうる
くさけハちよぶやぞんよはけまてくさればくうりこうくへとなせ

虫之部

蟹ハひへをとをんまふかくいめとれらすじもおくそおりなれ
かにへくびかのいちりとあはすなりおもしだとれくみ血をだれらぬる
かにハなくちのそこむりあずつなりさんごにおもしじ目をきひあつる
くふらひてみなちまつをおくすれば爪をおちすさぞうどうす
くふらひてぞくとたらぞ大きくやおそくもうりれおるそのひぞし
牡蠣貝ハわびらいまゆくなといびんしやうんれ鰻さ食とよのなり
くさこそハおこりとおすりのなれやいりかぶくさとえしつひろ
くさこそへ鮭ことよそうだのすのぞうしるあおわそくてとむつりのく
くさハへくようそれりのやおせとひてのやせれはむかたとれ
くさこそら大ふちやうとこぶてすれはやじめやみはやあなりうくふのし
くさこそハさけすぞそのちひはいてへいきりうくにくするりけり

よ

米穀之部

艾餅わるくなひなりつまとむろむおあてふゆりまようろりのなり

よりだいちり血をよくとむる腸胃のうち肩老人よりはよき

鳥之部

蒿雀はあまくちごれなきいのどくなしからだかりしさふ
よくすゞめとよびて又いにしてざくりがよきをきんしまなぶすがり
よしすゞめかはらてきつまく血をもとめむたをやすかり

魚之部

下口長はあまくて川のなかにすむどくなきこれかのやりたちてふくむ
よくこそはなしさけさうべしはしてよしわかりてもよくやせよ

た

穀之部

たまごはんはまことにあまくどくなしとよくあらとてのうちにつよくあそし
なまりこそまよびたしはのこへよしはすぐれてよしのなかくりのあたり
なまこそはひえのりのあたり脾いれざるゆゑさしとむるにてぞうりの

草之部

羅蔔はあまくしくうんそをとむすまくとけしてたんをさうかり
だいこんはせきふかくをりしふくりみはをむぎさをしうりのあたり
だいこんを血をとく人よりしゆやしゆをわきてあふるくかぎる事
だいこんは人をころしてもくるしふくりふがたふいうしろく すう
だいこんをよくすりてそれたしなまりかにさいれにはとのあせよ
だいこんのことよくすりてあさをちかくてそれとさえてまた入ながし
蓼はくくうんのりのあまくらんのすらひさつさをちすまくやり
そでよそ目をわきてふかるての句をれらふをすりあかり
ぞてそれは中をわくむしさそふかにいは宜ゑのきれりのあふし
ぞでをてさはこれ月あくすあさんぞんと虚あまのく
そでをてあがてあくすみしとかなひむくすらるみとそ人ぎしやせん

蒲公(えんかう)ハあまくたいらかどくなしにうそれわりのとゞこほりをちらしねつどくを
たんどくをさんじちをさましそれにうのはれをとけよろしくほじ
たんりうハせうかんきげさくおほしきのどくわりちくすりのなり
筍(たけのこ)ハあまくさむくどくなしおほくくらへバはらをひやすものなり
たけのこハ目をあきらかにしてきをまし気をくだしねつをさますものなり
たけのこハ風どくをよくし毒をくだすくすりのなりよくたくはへおきたるべし
たけのこおほくくらへバすなはちいたむものなりふかくさけよたんをとりさるなり
たけのこハむかしハひんけつのやまひつねにこれをもちゆるといへども大すくなし
たけのこはそのあくをよくとるべしわるきにはくだりやすくさらにあしと

菓(くわし)之部(ぶ)

橙子(だいく)ハあまくすくせなくかんきをやぶりなかのほどきをまし
だいくハむしをころしさるりけをとりはくちうのどくけを胃気をさまし

禽(きん)之部(ぶ)

鴿(たう)のにくハあまくたいらかどくなしすゞしくちをひらきてうちのちからをまし
たうのにくハきよくすむ目をあきらかにしむしのくすりのあをさをさるなり
雞卵(けいらん)ハあまくびんぞひとりやすくしてさらにあるくをさりてゐたる
たまごこそさびりとまじさんのちからをおさえて目をあきらかにす

獣(けだもの)之部(ぶ)

狸(たぬき)さんてんあさんごにゆくいあちをとるべし目をそこなふなれ
たぬきをよびおれさくすみちぞうてまたそれわりのやうきめぐらり
たぬきあくりられるにかろやさしくめぐりにむすびなきもの

魚(うを)之部(ぶ)

鯛(たい)ハあまくあたゝかにしてあぢよくにくをやしなひどくなしもちゆるにさしつかへなし
たいハかめひなのかんきをましのゆかれきわりかへつてらうし

たいへんおとこがおほく出たりしに ほどなくだんだんよわりきたりし
鱈のうをも大ぜいのまへにてやひものにしてつけてそろへさし
たらへおもいれをとりよせかうのまへひきへさしへかりをす

虫之部

田螺これ大きんのの目がらさればとてわたりてむかでられ
なかにそのかさのあまへをしろるれたうけのまれていてむかでは
なかにて大ふだんとつじをりふくちやくれ結かつき豆すりのなり
なかいとこどろなさいでりろくのまぶつくまでよくいゆきとの
なかいらひ酒すぎてくちまさやまどゆるはれあかていゆや
鯖わまくみいのりのまりぞく臣下をろやみたちれるやりたり
たこはそんもくちてもあつふうちをかくやまるりちとうすく

ら 穀之部

蕎麦おほくたいへんのりのこさをかきものにてすなの
それでさのかくすかまかごくまゆげてながれぬけて目でま
それでもおくちこずうけれどもてそれからぞれいてまいりの

つ 草鳥之部

つくじこんれいのまりさすたびくりのさちにくへでまとなり
つくじちとうこ臣て日そてすむしみやどのやしまこさらふりのく
露るもつおとこのかたもいのりのまへをえらるかうきぶ
けうこれは爪をするもしけり勝すくなかりすりのどれ
けうやくまろきとことをくまぞ百びやくにてすりをりなり
鵯るいつんびやたびぞれ人るへなれむかでなれ
つぐよくさまやをかるひてぞく臣ちよびやうけらいをさてたなず

ね 草之部

鼠茸(ねずみたけ)ハおほくよいはえてむしやくしやうかうさうハ白びやうれいく
ねずみたけをあつめよくすりまぜこれをまるくふくすればよくいゆるなり

獣之部(けだもののぶ)

猫(ねこ)ハおほくわきまへゆゑにしてひとへなりのちくさひにてもちゐるなり
鼠(ねずみ)こそおぢわひをやみゆゑにほねまでこれをとりのさきすりなり
ねずみこそゑてここちをかたきにいはれむかうかばれてこのあらそくりの
ねずみとてさきてはけんぜんになどりありよくつまりとしてまのかべにあ

穀之部(こくのぶ)

大麦(おほむぎ)ハちのみちにうりさんぜんごちめへ目おすをはらすべし
大麦米をあつめよくすりひえのりのひあふるむしやくとなり
納豆(なつとう)ハ大うんのりのりよろしくれなきへはなどくぞやくいのむやし
なつとうハかさねつけのやきすすでふさむさえ大とくれりの

草之部(くさのぶ)

なすびあいおぢりひおほくりんのちれおなすをとくさ母すべり
なすびあとこゝろよりふでこゝろそあやしれるもなをゆくのますせよ
なすびあかなうちやうさむきすりかりぜんぶさらすのとしゆゑし
なすびあかまんびやう氏くやくいあちなれかせてやくゆるしとなすり
茄子(なすび)こそおぢりひおほくりんのりのひえたるへあやくむをべうす
なすびそくへどそんぜすりのなわやさきをこゝにてうきのどくあり
なすびそのれふそんぜすりのぜにねぎむくへいすにやくせよ
なすびてたきさどさりつてもいはゆきうれうちあうさにつけでし
蕣(あさがほ)うんおほくごくにうさうしむきなきてうごくすはを取りしぐ
あさがほ禄ハ目れいてこゝろをそこぞむりのきうしとだして中へ入だし
あさがほ氏実(み)目をあさうふいてこゝろむかし月八日ふとりてやくゝせ

菓子之部

棗(なつめ)こそおほくはわかくなるなりのあぢはひあまくしてとくとぞなはる
たゞなるめんわんおほくのぞけばせうへはなくすべからず
なつめにしてかしたなうかの百ヶわびくなつけふかくり
なつめそきよとなぎなひてきつきよく胸すこしてあなあしき
なつめこそちんそふのぞくかりてそぶきやとあきことくすなる
なつめをさおほくさうくすみ歯(は)にくぞてこふひもじ
梨子(なし)こそはわかきをゆくんさきとあたふたかんとすれ
なしにてひえりのあわいさんさうやさんごにやうくこれきやし
なしそいは痰のどをかぶきともつなりこなやすくちすなかり
なしはてかくるほと気(き)をまうしきれいさりや目れいてこともむ
なしをこおほくすくをまなさ中ひえてなるびのちふきかりそくあしむ

なしはくきにときかりてかりこき背にいそうちにこわき入かりし
なしはて滞(けり)にあふしもそれかてきてとあてきとちくするなり

魚之部(ぶ)

鯨魚(くじら)こそおほくをへるりぞくはまえひえりのをどくわかとはき
くじらてそらくふたんをうじつきは気をすこしはちすかりのく
くじらおはうちやいのきてほじとらび目れちわらくあぢけひいどく
くじらはをのきてときちかすのぞにえてきいろうはへりとあり
くじらはまひとさをさぶうちくゆとさうくさすこしめそそのてことむ
くじらてそ下(げ)くろれかちすり脾(ひ)胃やうら胃をあうくらなるき
くじらをそやすくにほらすのぞにかくすりとあいてあうなるなり
生海鼠(なまこ)ひえきよびやうみなぞそやくあきれたもひせとろとりのく
なまここそだんれのすりとさくなるわかずにきうくにしてせい汁(づ)とまず

なまこそたんはぐすれなすびなる六腑(ろつぷ)きさはしてこまかくし

む　菓子(くわし)之部(ぶ)

零餘子(ぬかご)はうんおほくぶくは腎(じん)中ぐぞおひざやかにするなり
ぬかごとてきよやとかざるひりのぞは山のいもよりなほうすりなり
梅(むめ)をゆくたとへありのまりぐすりはうたきはとひつ歯(は)とさぐんぐす
むめやきてすりかなる地ずくるのどはゝみいたきよ秘つのさかいづつゝし
むめかりはことゝをゆうんくされひよくいさひのも冬ふらへせよ
むめかりはときゆくとそゝのそんをきのどはるむかふうてぞくれ
むめかりに公ちらたかれとしひゞまるさつくとどすむかりまくする

う　穀(こく)之部(ぶ)

粳米(うるこめ)はおほくすくなくはいで腎はいきりをとめきとぞゆしくなり
うる米はたちかりねてまとぞれるひていのきをほしてえぎうなつぐ

餛飩(うんどん)はなにはのりのまりなおにげしきらくなとうつおせとむりのなり
うんどんはらつきひれ秘つきめして大だいこんをときらくおぞられ

草(くさ)之部(ぶ)

獨活(うど)はさてお多くしてえんれりのそのはてこゝむげつかもり
うどこそはきんさうにてこゝむつるなり爪をひきつらあつけいてむよ
うどやてちぶんけふたり腎しやうんなまをあすほしとくせよ

木(き)之部(ぶ)

烏樟木(うこぎ)こそおおつくうんすほしこん中をおざるひ女衣とますするなり
うこぎこそちぶんけれおりはへやらんれる身をよく腰にする
うこぎこそ小だいこんとよく法してむぎらおなこさとをぞゆとめ

鳥(とり)之部(ぶ)

鸕鷀(う)はのどりはひえのりのゝきらくするみなんはものへのうんれむぢす

うぐひすハなをよそへうたひよのどかなるはるのひによくさへづるとぞ
鶉(うづら)ハそのなくこゑハすゞしくてよきはつゆにつきてなくとす
うづらハあさぎりのたつはやさのこゑとよく鶉(うづら)のゝりの
うづらをおかしきものゝこゑにてまでよくすなはちはりもとむ
うづらのきたる三月にはじめてすだちすることへのかへりの

獣之部(けだもののぶ)

兎(うさぎ)ハおほくハさかりのやうにをもてはなれてはなひさしきすまう
うさぎハつきのかげにすむといへりすなはちあたびすゝみよりこそうたゞう
うさぎハつきてかきたてよくあそびすみあひのかぜとよすゑにしするあり
うさぎハつきのかげにすむといへりはなしてかへすぐんかうせんするもの
うさぎハやもめのとゝのことつまりやうやくとまつるたまきんもの
うさぎれけるもさかりてあるときもあるへつけよめしやく

牛(うし)ハ天神のゝりものなりとてつけとさりてきよそんとえたるふ
うしハくるまのひきゆくにはすぢをつよめちからそへわざむ
うしハくるまをはこびものをもちつとめしのぶるにあたり
うしのことをきゝやうとよくちからあるたんとさりめぬよすりと
うし乳(ち)ハおほくひえりのやうひさにかうさのことにくねふのめ
土竜(うころもち)ハひとくうんどくかにようちやうみつにあうさにようし
うころもちかさくひみやのむかしかうりとくとすにうひかてよし
うころもちこゝろせさかりてしやうれんのかぜゆへのかみなそてまれ

魚之部(うをのぶ)

鰻(うなぎ)ハくわまく太うんちまく池すなかをかざるひにてれあしさま
うなぎこそよくちうひえてるふよしひとそもろとうさいちてそ
うなぎこそしつけのうけちとうものをとらはつよくきんとおざるふ

うるゞさしそ痔はすりされつゝ日にくすりとなるきいふともあり
うるさきもそりんつよくするものなれや口にきゝしてその毒ありわり

の　與し部

熨斗（のし）はなまいきよりそうにけらゆゞくは足すればたんどせんそくにいひ
はしかく目とわきうふまけどきうさつまくと海してきよらうじぞし

く　穀し部

黒豆（くろまめ）はわきゞらひはまくをいのちのひざはれやちろ〳〵ふより
くろまめはもとよりもみなよりきゝくはけもひきれいきうや胃ねつさるよの
くろまめとよかなてあめつゝふくへもんとなれるふくすりなりけり
くろまめはちゞぶみなりさんのはち風ひきたるときうるのぞくし
くろまめは目とわきうふすよくりちとすじひるよのき海ぢ
くろまめはきれいぞぬふすりなりつゝ日にふきくせよいこうくなり

くろまめおいのこでそれてきらふあれ人みなされ口までもきゝくする
くろまめは是よりふよりそのふでくもわまくにけうしか人よとく
胡麻（くろごま）はわぢひはまくびんなりさんごにちふれおりざうふよし
くろごまとあかくきくすみきくておぢかさにつけていゆぢし
くろごまのおふとわれはにぬまとやこちとなりぞさひまでもせん

草し部

萱草（くわんぞう）はわまくをいなりまうだんやうえびやうのと氣ありてぞよろさ
くわんぞうはうさ風まひぞへせにけうこふくすりなりけり
枸杞（くこ）はてわぢひはぶくひえ氣のきをそれるひで世へと海とく
きはもいは目とわきうふ風とそうすぢちかくちをそうかす
きのそとひさしくへでなりきしちやうはもうなりけり
きこやくてちやう胃はきよれつあすくさとめぐらして毒くとなるとよ

枳殻(きこく)ハりんわうくひふくしりゆくなるかろひのかちざるもあり
しかれどもおほくくらふすれバ胃(い)損(そん)すゆへにかならずすこしすれ
ばはらとたんとけてかだんをけくつしして歯(し)ともにそんざれ
菝葜(くつひ)こそかならずしてまいりのおほくさかくするけ痔(ぢ)れど
くハひそさと雨みなかさよめよくたれものゝとのそくりのあり
くハひてまんにかこゝろされてたよれあるりぬる黄(わう)葉(えふ)ころのませよ
くハひをそへけにえみふ宝りめよくハひすにしてハ歯(し)をそんさす
くろくハひふかおまじてびん事りのさこゝとめて痺(ひ)瘴(しやう)さるりの
くろくハひすぎてハろけかろ事りのえ金ろじてそろりろ
くろくハひむきれハむりとさ毎するり事だんかりしみかきとおもす
葛(くず)のこハわまく大かんかさとあ大かだんとつもしこそ　すミ
くずのこハよう入れものかきくすやさけよひ痃へとさ毎するりのこ

くずのこハなまくへのきやうふてんぷんやみなさこゆくさとらしろものなり
菌(きのこ)ハらんあありすぢとふさぐありろけとあしれみちぢ乃どく
くさびくハ百びやうれどくよろひくはまて唇かず夏でくわりとしれ
くさびくハ胃(い)をそこくうりそろちくきびりものあり乃おほくさりくする
くさびくハたろふゆきよじどくりじまりあさいみづくわりとしれ

菓子(くわし)部(ぶ)

九年母(くねんか)ハあぢはひあまくひえたりのこゝろよく脾胃(ひゐ)をひらく
くねんぼハさけをもとするりむねちらいさるとあまりえんおさくなる
栗(くり)こそハあぢはひをゆくこえたりのだんとだるびわりかくらす
くりハて胃(い)れふあつしこゝをまますあまりそくえでかなしのこゝむ
くりをゝて日ふかりさしよろくすわさとそぐすありこゝよりて補(おぎなふ)
くりとなくおほくくろふすかきとおもぐぜんこよれおれいさとむ

胡桃(くるみ)はあたゝかにあまくみだりにくへからず
かみをくろくするものなり腎(じん)のくすりなりかならずくへ
いかにたくさんにくひすぎてはまためぐりわるく毒になりたんとおこさずる
いりこにてぞ胸の気のどく心すぎてあしくなりぬとぞすれ
茱萸(ぐみ)のあぢはひあまくして毒なりの中をあたゝめてあしきをさするなり
ぐみはくちのうちにもちひて気のはらにたつきれいもあかくするなり
ゐまはくちに多くくらへはあしくてせきをおこして痰(たん)とさらなりの
桑椹(くはのみ)はあまくうんなりみぞうちしつさの毒まひらくさわらなり
くはのみをさけにつけてもちひてくるしのあやめくさとり
串柿(くしがき)はあぢはひあまくひえたりのぢをあたゝめて中をたすくると
ほしがきは脾(ひ)をやすくあたゝめるとうかりもしるするなり
くりさはさけのひ毒をさらすなりくさきをとめて胃(い)のさわりの

魚之部(ぎよぶ)

石首(ぐち)はあぢはひあまくゐをひらきまはしあまくとけさるなり
くちにもちひて気をやりのあつき心ひらきとゞむるとさはさく
海月(くらげ)こそあぢはひくるまのはらきをとりてさきとそぐするなり
くらげこそ中をとゝのへ気よくすゝめさうとつまりてふだんとなむ
くらげにそたんをけをとりきをも毒すなりとすまそあくすへきなり
海枇(かうら)こそあらをゆくたうんなりのかさりをおさむころもとるなり
かうらをそゝかにてあしくあしくもてなすとなくころなりけりさわくする

和哥食物本草上　終

合合(がふ)しゑんや

いのこでもかきえ気をまづふ　こされみそづゝさくらんとなす
ちいのうりうさけたにちとまく　ちまなこしさしゆとまづふ
うめふひとふくちにゆめとしやざ　ちまにさたなんのうりとしやまさ
こさじにいさわ痔(ぢ)をおこす　こゑよりいのとふうさをしやうざ
あんすふうりさこゆしをまざる　うさにうふ　まくゝさうりやうむ
さけのくちにろうさゝへふく　さけのくちにらししすだ胸をわうす
さけのくちにかしじきもつむ　ゆのくち猪のあんかふきゝやすす
こさじにいのまてもしゝくろうとまかす　ちふさじらいひゑとしやうす
ころふさたしえびすまに　こくらんなそゝうす

右かくいむべきものなり

和歌食物本草巻之下

や　穀(こく)の部(ぶ)

糯米(やきごめ)ハわずらひびんぞさることよだりかなくちらすかむりゆかれば
やきごめハちゝよびやかれどぞやくいあまるのやうさいちやうさうぐを

草(くさ)の部(ぶ)

薯蕷(やまのいも)わするゝうんなり又ハおゝぎんをおさゞるひさうきく腹をたえ
やまのいもひぎんさまよするふうとりかり引さしくすゑしことやさきのめ
やまのいもうさきのひよりしわるんれさいうにきけさ人ハまろくせよ
やまのいものうきれもろくなよじやせまるものえぞうるかず

菓子(くわし)の部(ぶ)

楊梅(やまもゝ)ハわづらひをゆくえん気ののふをつさとあたんをさうなり

やまもゝハ酒どくをけしきらしとかもよろこびをあつめ気ざう金つくく
やまもゝを多く食して熱さけるときハざくろのはしりのむしのあり
やまもゝハ多く食してもちがいや歯をそこなふすのときハよろし

鳥(とり)の部(ぶ)

山鳥(やまどり)ハさんれいのあり気ざう気(き)をましちからのものときハよろし
やまどりをおほく食すからだのびぞうずると同(どう)食くまらすへからず

獣(けだもの)の部(ぶ)

山猫(やまねこ)ハあまくどくあり又ハかん毒ありかんにあつかひ
やまねこハちのめぐりをよくすがれはるあつてときまくゆきらう

ま

穀(こく)の部(ぶ)

豆(まめ)ハ気あまくどくなし血(ち)を生じきもしやうじんとどくをけす
まめをおほく食すかきんごに目(め)まひもしぞおそわるものもあり
まめ気たハちやうどしてかさをけしくむしものとし酒をましし

草(くさ)の部(ぶ)

松蕈(まつたけ)ハあぢはひあまくのめもくきけのはじめきらく也
まつたけハ脾胃(ひい)をやしなひ食をすゝむ又気をますものにあし
まつたけハおほく食すからだのびうるときのにもきのときずし
天蓼(またゝび)ハからくうんおりかんをさり風をさち気(き)をますもの
またゝびハかゆきや又はむしおよびおくきもちよ腹ずるたより
またゝびハひぬをかはらしわれをきやうてむ又ハふくじらずし

魚(うを)の部(ぶ)

鱒(ます)ハうんけうひハあまくきそを酒もおほくすゝむ又気(き)する
酒をつひにおほく食すからだ中ずるしやぞくつきぞうをけう
ますをハちどれなんやかさのひや又ハたんわて大どくとし也

鯧（まながつを）ハあまく胃をあたゝめ気をましなをおぎなひいさゝかよくまみすうち
まながつをハゐぬをつくしよくすゝめむしやくじやうを治するゆへ
まながつをハよびのとんはんをたらすぞよくきんまとあらくのみの

虫（むし）の部

蟶（まて）ハあまくしん気のうりきん気をちらしよく毒をさるハえがりもちうむ
まてをゐぬるともぐさとひもしを気らいさりをぶゆう人ハよくしく　せよ
すれをいさのまづる気をめうわざやうんのちよくすべからず

け

草（くさ）の部

罌子（けし）ハあぢはひあまく胃気の間をあたゝめ毒をさゝなり
けしをいくさびりそこともうかうりよくせしとでし見るもよくうぎく
けしをう多くすかぐうく食へさうすりのどよくうむし

穀（こく）の部

啄木鳥（けらつゝき）ハ人のちりぢくハ虚し痔瘻（ぢろう）のちをとりうきてちうとうり
けらつゝきもりかそ大くをりなりうちきみてそのあしふ　あし

ふ

穀（こく）の部

陳米（ふるこめ）ハあまく中をゆし冷（ひえ）らきとめ胃気をどぶめハそぐりもてなし
ふるこめハさしぬしくてとめくぎうわびしもそうとともろくりのかなり
麩（ふ）ハあまくひえものとまふだくハ虚しうろ気ぐうとともゝうとものなり
ふをもかぶハさりをもとものぞくしみハゐるとそその人よりくうり

草（くさ）の部

款冬（ふき）もとハあぢはひあまくうん気のたんをあぢはひけのどしばふし
ふきのたうハあまくしてうん気のきんちのこのましくんぞなのまさ
ふきのたうもん気ねぞうにまよくすそ目（め）をはなうぞすハとともむ
ふきのたうふかんよくちんまぐてもあさらびすうくハよくしく　せよ

やき飯だちまちぶき飯かわくへいあくりて火をうけたるものなりすこしむし

菓子(くわし)の部(ぶ)

葡萄(ぶだう)こそひゐハわるくもありのかたんつじさわよく痛をとめけり
ぶだうこそすじほねによしこしにはこづつみくだりかり
ぶだうをのみくらべらんとをもくわりておちひなまわさにいすりありけり
ぶだうのみ二日よひそこあたまあかれおかしきすあまりありけぐゆり
ぶだうのみくわしさえしらぞてんすこしきこしかよのこりなくいけ

菓子(くわし)の部(ぶ)

餅(もち)はあしくらん気のありわろく気さきがたたり中とわづらふむ
もちハ胃(い)の気をまずけなむともちにえてこぬにらし
もちことにハよくさをすぐおふものあるものすみてハ痔(ぢ)気をとりけり
もちなるもあかたちほどけ大かりたへらくまむかありすこしよせよ

もちにはそくさしみんにいのこやくずしきたなせきんりんとしきと
河鮡(かや)わるくらん気のありぞぞあつらくわらへて毒をくすべきなり
やくそはこまよぞ瘡をみそこしろのぶちぐらえりのどかし
やくはぬく痔(ぢ)気をとりけらつけさくらんをぞしてむせくるとの
やくにけしよのひさらき気はわれ痛の毒なけ毒ぶりものむしおし
銅(どう)はらんかりてまずき文をとりあり毒にくきふぞて毒くし
ぶりハてきるをくと傷でこともちをさるが毒をえずるとの

二 穀(こく)の部(ぶ)

小麦(こむぎ)こそわるくびんきのありやうかれともめて熱きさろとの
こむぎがしいかなんぎらつじなり気の中に血(ち)のぼかにうし

草(くさ)の部(ぶ)

牛蒡(ごばう)こそわるくちとくるへんのぶくりかぶりさらかぶどよるき

ごぼうといふはさうりやうにてそのなをよびしかたりのなり
ごぼうのあくよわきものやさいにて見えしいつれのかたち
ごぼうにてあれはかたちとさうりやうにあるべしよくあれ
ごぼうとぞうてあはさくせよくもりてよくにもりしやうのそのなの
ごぼうにて十二月にはじめてはぞとなよ人のなを作る
蒟蒻はさうりやうにかぞへわつのでわうれにをとのあり
あんかんのこともちりて血をよぶすゝやうにあるもりのなり
昆布といふはきんのみんなのうちにあるもりのやまとのうちぞあれ
こぶはうてあらひのみたてよくまでわすれてはげしそびやうなど

菓子之部

部漱といふはかくたいこうにてでうしもとかくあるしのどしけそ
こむらといふはらんのあまたあるべきにおくとけちとなり
こゝろといふはおびたゞしくするに臓のまへとよぶべくいふむことらしきすりの
こまかにてわざとゆへになりてわざとよりも血のなそくまを

鳥之部

鶉のとりわけくるみのなりてまつはへてたかそびうつこその
あしかれりとちうづんけやまのたまのすみわちこどとなで頭すくす
あしかれりすみくあきれたてまでずのあしたなり人くしてでんあれ

魚之部

鯉といふはおびたゞしきわけものにのぼるやうに見ゆるとも
こひのしよろしきすにてもいまやぜんそくやまたゆきてのすゝめよ
こゑよくこゝによびすゑうでたんなのとれなかやよくかなましし
こひをこまかにもさうしてのことゝなのをよくかいうし
こひのまちこうへてうたびやうれはおだんつびしのまかものでゝあれ

こゝのとおりあふぐくれをりあわびてもわれてさえたくすべからくべ
これハあじひおれバからするくすでもみいのきくさんなりとしれ
鯉(こい)わるくたべたるハ中のうり胃(い)をひくるみぞうとおもて今やとうり
こちやてをよりたくさんわさずかくすくあかすものとしれ

江　穀(こく)之部(ぶ)

豌豆(ゑんどう)ハわるくたべるりぎくを生させるとてのへめぐりするなり
ゑんどうハ中をあたゝめをさミをあとはふりかおいしくさらくすべか

奥(おく)之部(ぶ)

鯨(くじら)ハおかいたべたのハわるくたべれハ毒の外よくハて石ひやうえうり
ゑいハさくてゑんぬりむくゞらのかずとをもふみげしにいう
ゑいハおかさうのへんやうのやそかうなのきのいよのきあつう

虫(むし)之部(ぶ)

鰕(ゑび)わるくたべれハかのうちに海老風をひらきさなやうずる
ゑびハやくおさる流のものさらつをしけりのぶをてわりくしこみし
ゑびハとるおしりゃくおかいまあよぶくおあしてのみへすくあし

て　米穀(べいこく)之部(ぶ)

田楽(でんがく)ハかんゆそづつ目(め)かいひ脾胃(ひい)のからきりきずすかさのごく
てんがくハ山椒(さんしやう)かやこ平らを胃(い)経らくきさくとをもる

獣(けだもの)之部(ぶ)

猿(ゑん)ゆもちらと性(せい)間ものいさぬをきれてゆくすくえり
てんちゆう(中)ちゞ(ぢ)みなんけにいてきゆくごやぶすぬおつてまうくせよ
てんつよびやうしょびゆくめてきやすびつ経つ石らくいかりまずかるよ

わ　穀(こく)之部(ぶ)

粟米(あわごめ)ハおびじハきゆまうしもえ脾胃(ひい)経のをきうぜんをらぞれをすふ

あめこあぶらきのやまひはむせやすしみにはよくとゞむるなり
はらへをのくまづきとあまりくすりちがひだんつじきぐへうかわす
あまへをはかく丸薬のほかよろしからずとおもふべしまかすことの
飴糖(あめ)あまくさんれいのするおちえとあ脾胃(ひゐ)をおぎなふ脾臓(ひざう)をうるほす
あめやうこさよとをそこのそかく血(ち)をうるほすはらをよろしくすべからん
あめよそいめぐらせずとすりのあれやおもくよくする風とちこうき
あめよそいらとのおもひでのつにくらめぐらよめやふらし
赤小豆(あづき)よりおしもゆくをちをつよくてごくすなり
あづきよりはえれりのうるをきうか小便をつじくぶりたう
あづきよりちゝのはれものをあまりよくすかずうらし

草之部(さうのぶ)

續隨子(わざくさ)はむしのあかまれものさらやうち下血(げけつ)をとゞむるものなり

わざくさよりわ川のきやうずどりをちがきしいうきちをと
わざくさでたふだんよりのほうをせいりなきうくへよくせよ
わざくさよりうさひだりもくそらうまくすりのとよろし
わざくさは二ぢやうきんのりくなのゆるしとらうひとのたでくし
胡葱(あさつき)あさくさんれいのこゝろとあつくはよくす
あさつき六月とおりてかのむしこゝろをいふとずいてもとのまつなわり
あさつきはおゝくよくすべきれるとそ大なる人とおそんずす
陟釐(あをのり)あまくさんれいのよるへ中とおもてあまくよくすりの
あをのりは胃(い)にとをきよくすりのえそれいひぶうとゞむるのなり
あをのりはらのはるひちゞをちらうきれ□そんそうよし
紫菜(あまのり)はあまくさんれいとんずすへにきうきのそろまり
あまのりはされいのすいだすとうりあれよくせんたうくて

蕨(わらび)こそわらびのわかきうちのものゝゆびをさしたる似たらしきそのことたらん
わらびこそひねにけりせば其みのおのがなりぬるよなよなをとりすつるなり
わらびもまたくみ路にまよひきぬをかけりなばむかしもさだめけられ
わらびとはやまさかさくらのこれをかりのやまのはのほとりにまよひちるにけり
わらびとばかりもくらふてもはなひとさへ月まつよゆふやそのしるし

菓子(くわし)之部

杏子(あんず)こそおもきをゆくおやまのあふきをさしちやうのつかひかへるの
あんずをばちからかすとうるはまたさくもかくとおしへなりけるとの

鳥(てう)之部

青鷺(あをさぎ)ハひえたるかたわきにはあらめどもいとよくひやすなり
あをさぎハ脾(ひ)腎(じん)のまよひをたすけんとておもひやるとりのくすりなりけり
あをさぎもふんとすゞめのゆふそのめのみんすんぞくるなりひとつことの

魚(ぎよ)之部

鮎(あゆ)ハあたひはぬきとなりけすらみをとめてすゝるりにもまよふこそべし
あゆハとてものかたりをすゞきすのみそらあらへいつてて腹はあたらず
鯵(あぢ)ハあたいをまよひやうにさかしきまくはまゆそのかなよりあかりそすれ
あぢこそあらそひ病気のもとに寄くすもきそへはそへあるかたきをすゝむる

蟲(むし)之部

蚫(あはび)ハうんのもよりさくすゝめははなへてひとつあかぞてうき
あはびハ胃(ゐ)をすくなくにすくりけどあてあさくさきすりの
あはびハおふれひゆるをおさへてむらいんのあるかたにとりなりけり
石決明(あはび)こそあはびにかへるかはりのめぐりをまよひのよもとりたりなり
あはびとばひとつのきほとせいへと中しまぎらくすりもへてさにより

さ

穀(こく)之部

酒(さけ)はくすりとして飲つもりの百びやうにくすりのかしらなれ
さけはてこゝろをあたゝめしつゆやさむ風(ふう)をふせぐくすりのぞうし
さけはそのむさをいれて胃(ゐ)をやぶり毒をけしそこ脾(ひ)をやぶるなり
さけすごせばみだれたんでのぼりあがさむしさびしき気(き)あかり目をそこなふ
白豆(さゝげ)はそのむまくうまはなりさむくもぞくすのみには中を和らぐの
さゝげはそれ十二月へのゆくはたけのうちや胃(ゐ)をわてあたゝんとそれのふ
さゝげをばつねにものうくなよぎんぬるしらみあぐるすりのごしかなし
砂糖(さたう)はわかくいづくも脾(ひ)のくすりさとるそ脾(ひ)胃(ゐ)とやぶるぐ
さたうこそ胃(ゐ)にさなをとろゝのあたしやおかしくして歯(は)をそこんずれ
さたうこそさらなれ病のさ虫すりのもとなるびてもしたくあらう
さたうはいらざるなれさらむりのえんかりしていそれいらむにその

菓子部(くわしぶ)

山椒(さんせう)はつめたくあかり山しゆくにも目をわかつこゝろふえをなくなす
さんせうはかしいかまたえもうしむかゆゆやをおこし中をあたゝむ
さんせうはいたくずきしゆくとうくをもうしむえてひえてたるむおそうそれ
さんせうはさらよくくだすものぞうしむしをころしなそろくたすそ
さんせうをとりしきうくてもつくすりなのらへあぶれきるをらおるのの

魚之部(うをのぶ)

鮫(さめ)の身をあらためれいのうらりもしにりしあぎうとそれのかさぞこさしづかなる
さめはかやどは血(ち)をうへくすぐにきんをらうるくひぢすうりのかり
鯖(さば)はまくしぶいれりのうりぎて虫のつけぬれされかびのたくさらし
さばはてつ目をおきうつふむもそうれいうむかづとなるをさくらぞ毒
さばこそはむしれいちうとき毒とかりおけらるんあくきらふりのそや
鮭(さけ)はそのたうんれりのいふくにはとうとりてめそこるまとく田すすり

さけとそへひえたる人のさかなにはあしくどくむしくりのまりすはしくふなし
さけとあへおりきみくすみかれりものやうきとしきずつりのとさうせ
[illegible]はそのおゝうひわるく積つくれりのさかなくに用ひてぞんとくえしのふ
さかなくそれちからをまじりてきずすりのさかしやしやくじあやびきみをもどく
さかなくそれちごれくさうひんそれしびきまみをどくつくさきてらし

虫之部

栄螺（さゞい）はんきのさぎく目見え気をますり山おほあくりのとしゆべし
さゞいは胃の虫をきらはくすめさんご気ちらぞすりのなり

蠏之部

石蟹（さくろ）はそのあしもおもくして道おりのゝとのかうさとうくとむゝうり
ざくろをむあかくきらくすみ歯のどくぞおうびをおれおいさゞりそくくむ
ざくろはそでのいれおりひとそぞどひりのたんのどくなりつしきてらし

き 穀之部

粱（こきび）はそのきみおほりたりのまねびかくとみゆるなりのかずく
黄粱（きゝび）はとかうかひわるくならいのりの中とつげくずりゆくとむ
こきびはそちからや気とまりはくりらくあしらへて病わらおなきさうなり
白粱（しろきび）はあぢかひはわるくびんなりしよおのぞんにきよ積つさうゞとの
しろきびはとこゆかとこみてさきとそ用ひとすびかよとつぎ中となりつくぐ
くろきびはあぢかひはわるくびんなりひのれ積つさりうれともあくなり
くろきびは小だんはじきりくゆかたりぞくとあ中とをきざのふ
くろきびはこゝよろしくてうくらんれのずのうちさせやさきゆくとそとむ
くろきびはいのちとのずつりのぞうしらくあしらへておりくそくく

草之部

黄瓜（きうり）はそのあしくひえりのどくおりおこりとかのはわんとしゝちずり

こさうりも百びやうのくすりなれども胃をそんじうけくおほくくらへばかす
こさうりをそへおこさうにへはよろしくいめあらすちうんれむしぞうりとの
こさうりとそへすふひとつてくすりかさんとなりさゐてもうし
木耳はひろく味よおりされどくはやたべしみれもにかつぞくされ
こそふげおほうのわすくなるはありのこゝろよく上命してきよわくすう
こそふげはみぎうやはげをなちとあをんすあけにくるとりすりうう
こそふげは月をはそらくまて化ゆう痔ちまりするすにくふなし
こそふげはやうじもあまよれりのごしれもえ人すのいんれびむみやらし
こそふげはかずくおかきりのされどくぞうりえをてうしとくされ

菓子之部

こそんかんは内臓ぞてうれんりのきけをさすてこうしとすしれ
こそかんは皮をもにく入すりなりきくとめでてしてたんとこそうりの

鍛冶はわすむじして冷ぼれりのこゝろやかつうりのことしるなし
ごんおんはたんとしやすうりのぞうしちくぶてんくあまうりのこうり

鳥之部

雉こそはお気をゆりしてうんれりの中をそえのものぞうりちくしとむ
こうじまそはこゝろよく上命してくつきとあひるれ寿よまとぞとおのへよくう
こうじさそぞごうまうくまれぞせんぞく此むしよそかされはくしまてくらし
こうじにうちろうミ木のけうさびうやごうまうくすれぞかろう痔をまむ
こうじとろく寒ぎうりくへらの月はまうくすべかうずうきおくろことの

獣之部

狐こそおすくひえりのぞくもわうきよらかをぎのふかさとちすりの
こう孫くこそもと肉をつくゆきそのあうくれとさうくとりうちかう

湯漬食(ゆづけめし)ハ多くせよその加ゐむけあしくは今よくなり
ゆづけめしおほく胃(ゐ)の気をよわくつかふらんとげどくなしけり

菓子部(くわしぶ)

柚(ゆ)ハよくゆくさん気のめぐりよくはよくすゝむときハ多くわざと紅
ゆのをとりて胃中(ゐちう)の悪気(あくき)をくだしさけのどくけしをのむとき

め　米穀之部(べいこくのぶ)

飯(めし)ハあまくつよふかくなくさんくにこそが紋(もん)となつてくわんせよ
これハひとおほくおゆそ多くすゝみ胃(ゐ)の気をもとんじるあふとある

鳥之部(とりのぶ)

黄雌雞(がうへ)ハあまくすゆゐの中焦(ちうせう)の中にそんぶるよろをおほす
めしはくせうせとどめこゝろよくもす腎元(じんげん)の気よわよくかあきす
めはくるぎとたのひせいぜのへもとくそへつとたとけしそすまし

めはをとこずくく血をやしなひおとこしこゝろくうりなり
めどりハまよびうけりゆ脾胃(ひゐ)にらしよくよくすゝめみきおもくゐを
めどりよく大小人(たいせうにん)のぶりそくて小ぢんと成りひしやくとげまと
めどりそ目(め)けわまいかくきんのじやうをよりでれきよおもくとすれ

み　草之部(くさのぶ)

実芥子(みがらし)ハわじらひくくうんのりのこゝのどごまりきんじしそともま
みがらしとうのふみのこゝて多くすゝみきて痛り目まいハだつてかこれり
みがらしかあんのどできらくきりてひぬよわくめしらくをすしむあれ
みがらしとすりておゝりれおちざろよひらいなうけてをげよかひあし
みがらしにかるをとらむでじぞうよくをいもれおすひおゝろりのなり
みがらしハちゝとしてわずまりけみてちゝぶみてむしかくつるしゆん
蘘荷(めうが)しそびらんのりのぞりろくのかりれせぬをとけすりのもとされ

みやうがハぞうくハかつけのくだりとあぢのミてにうすハゆくふかけ
みやうがのこハおさりをおこすといふくせぞうのゆとかれてきのかよしうり
みつハひえてかれいうりてきもの所へ行つかれある人ハしよくせよ
みつばそハかぜくどを胸胃をぬくれよくとくすあじ々くにけし
ミつかしハあたゝめよくすりそすびるぢびるあるりてるりハむぞうし

菓子之部

蜜柑ハ大ふおんとおほじしるりたんとのぞけておうづきをどくなむ
みかんのかハのどにかりめぐらしてとゝのへふくらんぢすりのこうり
みかんのそすんぞくにけしきよくすゝめひゐとおさめて肺経へよさうり
みかんのたちれもとむくのぞうし蟹とたへきよくきんもつとしまし

穀之部

白胡麻ハあまく大ぐんなしそこれハきもとをあつてむそしほりすゑ

しゐだけハあまりおほくくいてハおさなきものハうちはらけたくおこり
しゐだけハしよくにさからすのぞうし血すぢをつじ風をさけたすり
しやうがハまほうにてしよくにさからすのぞうしひゐのぐるゐのたすゐんずまま
醤油ハあぢはひあまくよくきゝとりのそこのくすりをさうそてさとろそゝう
しやうゆハそのかさぢすうあればむぢにかのいてさそよくき
しやうゆこそすずかハ胃のふをいじうらうのゐはきてふくらりのゝうり

草之部

香蕈ハあまくらいうきてかずおもくしもつかふくわうさきとふさんうり
しいたけハあまりすこしてかくそつさくハさつのこんうりくらあつにもぞ
越瓜ハあまくひえてそのさけをとりすあつくらひていさるこどくとうを
しろうりあくさきをまたのみてりすしめよ所々くらとあまりのこと正

しめぢハあさきなれ人によりてあしくめぐりすこしもおもくへるハふくべし

菓子之部

椎(しい)ハきんよわり腸胃をあつくしはらをつよくすきやうもしよくふべし　しゐとちのゆふあわぬハきもかねごとにさりけてたしなむべし　しぬこはいむ血(ち)をさらしてゆくさりまた目にやくゐてしかるべし

禽之部

白鷺(しらさぎ)ハうんのよわりきをあてらしとくりをおさぬへのさわりのしらさぎハひねとあとるしよくしもうまんよんねかせとむつりのなり
鷸(しぎ)ハうんさいよくきのもとくなりをよびにあひたらなるうの

貝之部

白貝(しらがい)ハおのくるいのでひねにうし目とおさへてみとうのとくすあつり
しらかいハたんめくよけ物くすべくなすてもうそれの物なり

しらかいハあらくすかうさにてくへとざまそちちめぶくろの

虫之部

蜆貝(しじみがい)ハひそりの腸つかさくあしと目をおそらうゆるけれどもくすり
しじめがいハのぼんつじ胃(い)とひとくしへりけれらけらくぢもゝうあり
しじめがいハまえだんゆうし煮(に)しゝとはぎをもとひにせよまへりるうう
しじめがいハあまくすみさくいあけれらうれおもこうのもとし腹(はら)をつよし

穀之部

稷米(のごめ)ハあきくひわりのこまやくまんひねのかせこきのもとし腹(はら)をつよし
ひへハさとくあわさくすみあだてさうやこもはらんとし脾(ひ)をおさむるの

草之部

蔥白(ひともじ)ハうくまなゆるりやうさんれバつかにぞされのせつねうりの
ひもじハちとぶよおのされうさまへでひのされをさらうする

ひしほずハすあまく世ハいと用るものぞ中をあたゝめのどのかわくをけす
ひしほゞのうるハしきやみなされハよくとゞしてもちいてちとおほくまり
ひしほゞハおだんとよくつじうくり風ひきうしらハそむかざしれ
ひしほゞハ実ハこそハ中をやしなひて目をあきらかにするものなり
ひしほゞハくうらんあつてすぢつるときやみハ目にもまじハり
ひしほとふゆの三月よりおほくすみ中で蜜をきこんりつと達
肉蓯蓉ハあまくなるたり山しゃくじゃくのたんをけずきやうこひのどく
ひしたけハうひりのへぞくに道ゆへくこれをきるくすべからも
瓠子ハそれあまふかゞくんぞくおうあつておやうのされうにもし
ひさごハそうわきとをつておだんとつじてもちいれおほくつきなとうり
ひさごをきうりまいの人うまくきらいうちすぢやそ年まはちやくにゆるの
莧菜ハあまくひえりのうれとぞ道目をあきらかふおほくつきとうなり

ひゆごそハむしをころしてさうをくまんぞふおだんとつうじてぞすれ
ひゆことも身をよろこびそうりのおもてやみさんさんのしまりかなりとす
ひゆへて気をとゞめのひてせいをますなどたりまくさらするのし
ひゆとてもあおくすみ熱ぞうずく中を和てゆるこそんざす
𦼮実あまくなとへれりのすり又ハひえ中を和てぞんするゆりもの
ひしこそハめざうとそさのふりのうれてやうさきんざじてこれとうりの
ひしおさて蜜とざうまくさらぶうりうすにれてにもとよいすゞう

菓子之部

枇杷のあまくひえりのうわざぶくいにあざうとうして肺をうるおし
びこもそハさとよろしじつくるさとあみづつきこともうりのうすり
びはをてあまくすみたん発つきをおむざれぞひさんそくうされ

鳥之部

蒜(ひる)はおほくくらへばめをそこなふ又ちのめぐりをよくし毒なく
ひえりくてほれしみあぢなくしみぐさゞふさのこゝろよくらず

し　穀(こく)之部(ぶ)

糯米(もちごめ)はおほくくらへばさむけをおこす中をあたゝむ
もち米は気をよくし血すぢのゆるめらくらんすゞくぶるすりのなり
もち米と又はさけとあわせくへばおもくかさらよりのなり
もち米とおりくひては気(き)とふさぐみゝ病むりぬこしゝびろこその

菓(くわ)子之部(ぶ)

椎(しい)はおほくくらへば気ふさがりのあかくさくなして気つまりさゝするなり
しゐひてゝぶらとおもはぢはかりくさつゝんびやうこゝろそおこるものなれ
しゐのすなはちくさぐれのぞくしものつかれせずるくへはきすべし

世　草(さう)之部(ぶ)

芹(せり)はおほくくらへば血(ち)をとゞめ女はこしけをよくかためよくあり
せりのせんじ汁はせきをとゞめ小べんよくなりすくやすくなるす
せりのねは毒ありしむすゆるりのなりやさけのまじりあはさらぬあはし
せりはくさまゆさけあつさゝまちあすへりてくつゞ歯(は)をそんずれ
せりは大小べんとうじくけちくすくすきすだんあつし
せりのくさのはしきものなをす三八月くへばきかずへらん

す　穀(こく)之部(ぶ)

酢(す)はそんじものゝにほひのどくをけすなり又口中(こうちう)のかわきをとむ
すはそくて水気(すいき)をちらしからのやまへどく毒さをわりのぞくものく
すはそくておさにはのこゑをきのやしなひのいろとゝもそんずしにくり
すはなくなれあまくすすのゝぐらびやう胃(い)のはやみくさすくをそんずす
すはそくてむせひこゝろとりむしてつるむれぬのはよくすりのとしぬべし

草之部

馬歯莧（すべりひゆ）おほまゆにしてひえれのたかなんどつじうえ　すゝまと
すべりひゆ月とわきてやかすけなくあはれなるとこむるのうち
すべりひゆん猪つゞきて山たるものゝなたきとこむくるのすり
すべりひゆよるもれりのやうきくすり命とのべてさしらくねの
すべりひゆころ毎あけてすゑて花なき行にさらしてそのわとふねまき
すべりひゆをくべれはんのまゝかゞまくまちのゝたゝすにしるしこなをし
すべりひゆすひきくさへよりしあにそろうるふつけ見し
すべりひゆるまゝゝそすりて花見ゆまゝあさいゆるのあら

菓子之部

李（すもゝ）こそかごまちくるいあんれりの中にてえれのかたわでゆぬら
すもゝをばおれておくすかさよ餅つらす　棗（なつめ）や霰（あられ）とさらふあめ

すゝめれば鶏のひとをもやくよそのみかぞうふりやたらずのよ

鳥之部

雀（すゞめ）こそたうんれりのごくいましつうとおしてせいとゆするあり
すゞめこそおしひざよくおきてしまし子ある尤く合（きく）しそかめる
すゞめこそ春れ三月にはすりあかんやうくふとれのひにぞり
すゞめおほきれふとくおいりのぞかれと続いしやにいろよ

魚之部

鱸（すゞき）こそひぬぎうとぎのひをちかれをかくしで腸胃（ちやうい）をつぐ
すゞきこそ水氣（すいき）をおすうものゝあわやなめをふつうりちゆくすべきなり
すゞきこそよびゆうにはあきたりししすゞそいわもれくきやいぞせん

和哥食物本草巻之下終

毎月之禁物

正月　なまみそ　なまひとり　あし　たぬき

二月　たぬき　にはとりのたまご　たでかわ　九日ニ魚を食せず

三月　にんにく　たでかわ　とり　けだもの　みえとう首をくらふ

四月　きじ　うなぎ　ひとり　にんにく

五月　もち　此月ハ女子ハ火どもをあらひとうをとして食を

六月　がん　わかめ　さい水

七月　ひし　わさび　げん　蜜

八月　みやうが　そばきり　くふ　にはとりのたまご

九月　しやうが　くふ　かうり

十月　いのそて　さんせう

十一月　もくどり　のそて　かめ

十二月　みつ　うなぎ　うし　かめ

たつきハ食すべからず　或ハ毒ひとしくさうじ

わろいハいのちとりかかす

病者常に食すべき物

しゞみ○ふなか○こびうを○あぢ○かつを○あなご○めだか○くげ

いりこ○うき○かわおび○しび○むぎ○わらび○くずもち

ならまめ○かうらいそ○ふ○ゆばそ○たうふ○うこぎ

なし○いちご○あさづけ○かりん○山のいも○くり○はまぐり

右の外からり見合食すべし

かれりの

長病日

六日　十五日　十八日　廿三日　廿四日　廿八日　廿九日

右此日灸針薬をはじめて用ゆべからず

四季を知る事

春ハ寅卯辰。夏ハ巳午未。秋ハ申酉戌。冬ハ亥子丑

血忌日

正月ハ丑 二月ハ未 三月ハ寅 四月ハ申 五月ハ卯 六月ハ酉
七月ハ辰 八月ハ戌 九月ハ巳 十月ハ亥 十一月ハ午 十二月ハ子

右此所手習之内令世間流布或假名誤或悪筆不似有之多加吟味令刊摺之平

正保三丙戌年 六月吉日
重新板

傳重良之也